

2017年3月1日から10日まで、ハワイ研修が行われた。本研修は、学部生や大学院生が実習やセミナーを通じて、先端研究に触れること、また、海外での研修を通じて、よりグローバルな視座を持つことを目的として開催された。今回は、10日間の日程で、ハワイ諸島のうち、火山活動が最も活発なハワイ島、東北大学の天文観測施設が設置されているマウイ島、ハワイ大学の本拠地があるオアフ島を訪問した。

ハワイ島では、現在も活発な噴煙を上げ、火口内の溶岩湖を視認できるハレマウマウや、1969-1974年の噴火で形成されたマウナウルといった火山を訪れた。また、1980年代以降、噴火を繰り返しているプーオーオ火口を起源とする溶岩流も見学した。

マウイ島では、ハレアカラ火山に登頂し、かつての火山活動で形成された火砕丘群を遠望し、山頂に設置されている天文観測施設の見学を行った。また、山麓の研究所では、実験施設の見学とセミナーの聴講を行った。

オアフ島では、これまでの2島よりも古い時代の火山活動により形成された地形や地層を観察した。太平洋津波警報センターを訪問し、日本を含む、環太平洋地域の地震活動やそれに伴う津波の観測施設を見学した。また、ハワイ大学マノア校にて、同大学の研究者5名によるセミナーを聴講した。内容は、ハワイ大学の研究の強みでもある、大気、海洋、火山に関するものであり、最先端の研究内容をご紹介頂いた。

自身の専攻である火山学以外にも、天文や海洋といった、地球科学の他の学問に、しかも、その最先端の実験・観測施設や研究内容に触れることができたのは、非常に有意義な経験であった。ハワイ大学の先生方も、東北大学の学生の質問に対し、丁寧に対応して下さい、より理解を深めることができた。セミナーはもちろん英語で開催されたが、日々の買い物や移動の際にも英語を使う機会は多々あり、充実した研修となった。来年度以降も、訪問先を変えて、海外研修が行われるとのことなので、海外経験を深め、地球科学の最先端に触れる機会を、より多くの学生に享受してほしい。



ハレマウマウ火口内の溶岩湖



ハレアカラ火山山頂の各国の天文観測所